

中小企業DXデータ活用研修

DXの必要性は理解しつつも「結局DXを推進するためには、何をすればいいのかわからない」という企業が多くみられます。DXの根幹にあるのは「データ活用」です。データを使って新たな価値を生み出す「データ付加価値向上」と言い換えることもできます。本研修では、データ分析・活用の基礎的なスキルを習得するとともに、自社と顧客視点から必用なデータを改めて検証し、課題解決に繋げるワークショップを行います。「データ活用」を基礎から学びたい方は是非ご参加を検討ください。

日時 2022年 7 月 26 日（火）より全8回（各回13：00～16：00）

場所 まるまるひがしにほん 東日本連携センター（大宮駅徒歩1分）

対象 さいたま市内に事業所のある企業（募集人数：10社 15名程度）

費用 1名 1万円（1名追加につき プラス5千円 各企業最大3名まで可）

～研修内容 アジェンダ～

座学	第1部	第1回：7月26日（火） データ活用とは（活用事例・ポイント紹介）
		第2回：8月2日（火） データ分析とは（事例・進め方・演習）
ワークショップ	第2部	第3回：8月23日（火） 顧客価値共有（As-Is作成方法・価値共有）
		第4回：8月30日（火） As-Isシナリオ作成（As-Is作成・データ価値）
		第5回：9月6日（火） To-Beシナリオ作成（再検討・To-Be作成方法）
		第6回：9月13日（火） 情報・データ抽出（To-Be再検討・データ整理）
		第7回：9月20日（火） Can-Be・Can-Do作成（実証に向けた準備）
実証	第3部	各社でデータ活用実証期間（講師によるフォローアップ）
		第8回：12月6日（火） 最終成果発表

研修の特徴

- 第1部でデータ分析・活用に必要な知識の基礎を事例を交えて理解します。
- 第2部では、自社の顧客視点に立ちながら改めて自社業務の課題を抽出し、その課題解決に繋がるデータとは何か、既にあるデータや新たに取得すべきデータが何かをワークショップを通して整理し次の実証段階へ繋がります。
- 第3部ではワークショップで整理した内容を自社で実証することで、データ活用の第一歩を踏み出す機会を創出します。

お問い合わせ・お申込み

URLまたはQRコードよりお申込みください（7/19〆切）

<https://forms.office.com/r/brQiC9HwJ2>

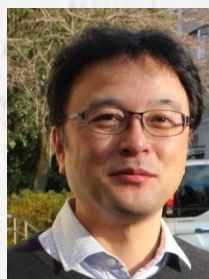
公益財団法人さいたま市産業創造財団

事業企画課 丸山、井上

Email: dx@sozo-saitama.or.jp Tel:048 851 6652



第1部 座学講座(データ活用基礎)



講師：平松 薫氏

埼玉大学
大学院理工学研究科
教授

【経歴紹介】

1971年生まれ。
NTTコミュニケーション科学基礎研究所に入所後、NTT空間株式会社等を経て、
2021年4月より埼玉大学大学院理工学研究科 教授を務める。
専門は人工知能、メディア情報処理、地理情報処理。企業における実務経験に基づき、データサイエンスに関する技術者および研究者の育成と、研究開発に取り組む。

～1日目研修内容イメージ～

○データ活用とは

データ活用事例・得られるメリット
(客観的証拠、正確性・確実性、時間短縮)

○データ活用を支援する技術

オフィス系ソフト、分析系ソフト、
AI系 (OCR、画像認識 他)

○データを活用するためのポイント

問題を理解して目標を具体化、
費用対効果を計算して関係者を説得

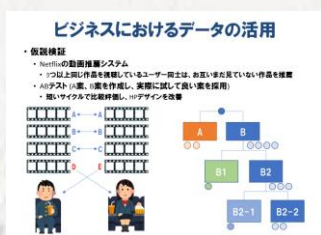
～2日目研修内容イメージ～

○データ分析とは

データ分析でできること (事例)
データ分析の進め方とゴール、
プロジェクトの流れ

○作業を自動化するための技術

エクセルでできるデータ分析 (演習)
RPA、OCR、画像認識技術 等
(技術の紹介と演習)



本研修の座学講座の1日目では、これまでの事例からデータ活用で得られるメリットを整理し、中小企業の現場に適したデータ活用方法を見つけることを目指します。また2日目は、データ活用の核となるデータ分析の概要について学び、エクセルを使った簡単なデータ分析演習や、RPAやOCRなどの最新技術の体験を通して、データ活用に必要な技術の使い方を理解することを目指します。

第2部 ワークショップ(価値創造編)



講師：古賀 康隆氏

IVI技術統括顧問
※ワークショップは古賀氏を含めIVIの講師3名体制で実施します。

【経歴紹介】

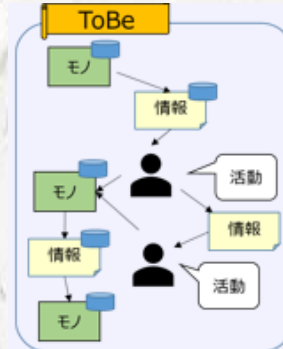
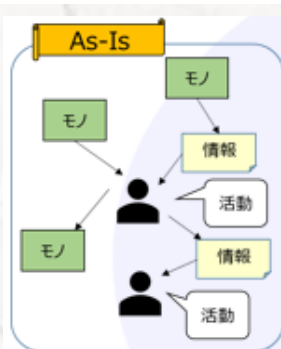
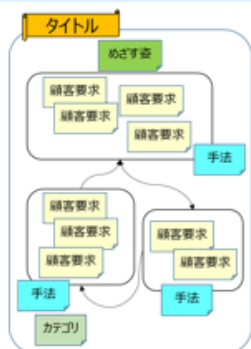
1961年生まれ。
(株)東芝生産技術研究所入社後、
東芝生産技術センター研究主幹として活躍、2016年には(一社)IVI理事を務める。
定年退職後には、さいたま市産業創造財団コア専門家、岩手県産業振興センターアドバイザーとして中小企業支援を実施。
2019年に東京理科大学非常勤講師を務める。
工場のスマート化指導を始めとしたDX推進に関する豊富な知見を持つ。

Step1
顧客から求められている
価値共有

Step2、3
As-Is (現状)
+データ価値検討

Step4~6
ToBe (目指す姿)
+データ価値創造

Step7
CanBe、CanDo



CanBe, CanDo		
STEP	CanBe	目標
1		22'06
2		22'09
3		22'11
4		23'02
STEP	CanDo	目標
1		22'07
2		***
3		***
4		***

ワークショップでは、顧客から求められている価値に対して「自社が出来ていないこと」をデータ視点で、「データはあるが活用できていないデータ」、「そもそも今ないデータ」を抽出し、価値のあるデータを想像しながら現状把握、そして目指すべき姿を創造します。最終的には、CanBe、CanDoで「何をしていくことでどうなれるのか」を挙げていき、自社で取り組むストーリーをより具体的な形でまとめていきます。